

東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/ 小清水 和彦
編集者/ 情宣担当

大変な時代だから「春闘」を考えよう!

「春闘」ってなに？

日本において毎年春（2月）頃から行われる、**ベースアップ等の賃金の引上げや労働時間の短縮などといった労働条件の改善を交渉する労働運動**で、呼称は「春季生活闘争」や「春季労使交渉」、「春季闘争」などと言われている。

企業別労働組合が主流である日本においては、個々の企業ごとの労働組合の交渉力の差が大きい、そこで**労働者側が団結し、各企業・各産業が毎年同時期に歩調をあわせ団結すること**で交渉力を高める狙いがある。

ベースアップとは・・・



ボーナス（期末手当）の一時金ではなく基準内賃金の「**基本給**」を引き上げる。

すなわち！基本給が上がれば、**退職金**などの**生涯賃金**が上がります。

連合（ナショナルセンター）の春季生活闘争（春闘）方針では・・・

2021 春季生活闘争の**意義と目的** ※抜粋・途中省略

3. 誰もが安心・安全に働くことのできる環境整備と分配構造の転換につながり得る賃上げに取り組み、「感染症対策と経済の自律的成長」の両立と「社会の持続性」の実現をめざそう!

とりわけ、「賃上げ」については、「底支え」「格差是正」の観点を重視し、労働組合の有無にかかわらず、一人ひとりの働きの価値が重視され、その価値に見合った処遇が担保される社会の実現をめざす。また、労働者を「労働力」でなく「人」として尊重する社会の実現のためには、労働組合自らが仲間を増やしすべての職場や地域での集团的労使関係を拡大していくことが重要であり、組織拡大に全力で取り組む。

「一人ひとりの働きの価値」は、**さまざまな仕事をする事**や昨年より今年と**経験を積む事**でも、一人ひとりの労働の**価値は必ず高くなっています。**

その価値に見合う賃金向上を要求として、会社側と交渉をしていく事、その要求を実現するために**労働者が団結をして取り組む**、それが春闘の一つの大きな柱となっています。